

第2次

愛西市生涯学習推進計画

平成 31 年

(2019 年)3 月

愛西市教育委員会

はじめに

愛西市は、一人ひとりの学習活動を総合的、計画的に支援していくための指針として、平成21年3月に「愛西市生涯学習推進計画」を策定いたしました。

しかし、人生100年という超高齢社会、急激な人口減少、財政状況、産業の状況、災害の増加、情報環境の変化等、愛西市をとりまく社会情勢は急速に変化しており、これらの課題解決に積極的に取り組むことが求められています。

このような時代になっても、私たちはやはり学びによって自己を高め、その学びを通して地域における人のつながりや、絆を得ることが大切であると考えます。このことは平成23年3月に発生した東日本大震災の折、避難所等での地域住民の絆・ネットワークがいかに重要であったかによって再認識されたところです。こうした地域の力を結集することが、様々な社会の課題解決に役立っていくものと考えられます。

今回、これらのことを踏まえ、変更すべき点や新たな課題を検討し、第2次の生涯学習推進計画を策定いたしました。今回も先回と同様に、市民2,000名を対象に生涯学習に関するアンケート調査を行いました。アンケートにご協力をいただきました皆様に心よりお礼を申し上げます。

今後、愛西市はこの計画を基に生涯学習の推進に努めてまいりますので、生涯学習関係者・団体はもとより、市民の皆様はこの計画の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

平成31年（2019年）3月

愛西市教育委員会

第2次愛西市生涯学習推進計画 目次

第1章 第2次推進計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の背景	1
2 計画の位置づけ	2
3 計画の目的	2
4 計画の期間	3
5 計画の基本理念	3
6 計画の構成	4

第2章 基本目標 1 いつでも、だれでも、気軽に学ぶ ～子どもから大人まで～

(1) 学習の啓発・機会の提供	5
(2) 様々な学習の場の提供	9
(3) 情報提供の充実	13
(4) ライフステージに応じた学習の支援	16

第3章 基本目標 2 学んだことを伝える、活かす

(1) 学習成果発表の場の提供	21
(2) 家庭で、職場で、活かす	24
(3) 学びを共有する芽を育てる	27
(4) 指導者として活かす	29

第4章 基本目標 3 地域と協働、絆づくり

(1) 市民活動へ、つなげる支援	32
(2) 地域づくりへ、つなげる支援	34
(3) まちづくりに、つなげる支援	38

参考資料

- 資料 1 愛西市生涯学習基本構想策定委員会設置要項
- 資料 2 愛西市生涯学習基本構想策定委員会委員名簿
- 資料 3 計画の策定経過

第1章 第2次推進計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の背景

愛知県では平成25年3月に「愛知県生涯学習推進計画」が策定され、平成30年3月に第2期計画が策定されています。

本市においても、平成21年3月に「愛西市生涯学習推進計画」を策定し、市民への講座、講演会等の学習機会の提供や、図書館資料や学習施設の貸出、社会教育関係団体への活動支援など、生涯学習に関する様々な取組を進めてきました。しかし、次に示すような様々な社会情勢の変化が見られることから、新たな計画として、これらの内容を検証し、平成31年度からの生涯学習を総合的に推進するための指針として、「第2次愛西市生涯学習推進計画」を策定しました。

【超高齢社会】

人生100年と言われるように、日本は超高齢社会となっています。愛西市の高齢化率（65歳以上）は平成27年で29.3%と、全国（26.7%）、愛知県（23.8%）と比較しても高い値となっています。平成30年11月には30.7%と、さらに高齢化が進んでいます。そこで、高齢期を迎えても心身共に健康で豊かな生活を送っていくための学習やスポーツ、これまでの人生で培った経験や知識を社会に活かす場の提供など、様々な取り組みが求められています。

【家庭教育の変化】

核家族化・少子化に加え、女性の就労率が上昇し、家庭生活・家庭教育にも様々な工夫が必要となってきます。

また、育児放棄・児童虐待・いじめや親のスマートフォンへの依存など、様々な問題も起こっています。

【情報環境の変化】

近年の急速な技術革新によって情報通信技術（ICT）をめぐる環境は大きく変化しています。このような環境では情報活用能力などの力を身に付ける機会を設けることや、トラブルを回避する教育も必要となってきます。また、スマートフォンの普及によるソーシャルネットワーキングサービス（SNS）で新たなつながりが生まれています。こうした技術を使いこなせる者とそうでない者の格差や利活用が十分進んでいないことなどの課題解決、使いこなせない高齢者のための学習機会の提供など、ICTを利用した生涯学習を推進することが求められています。

【地域とのつながりの変化】

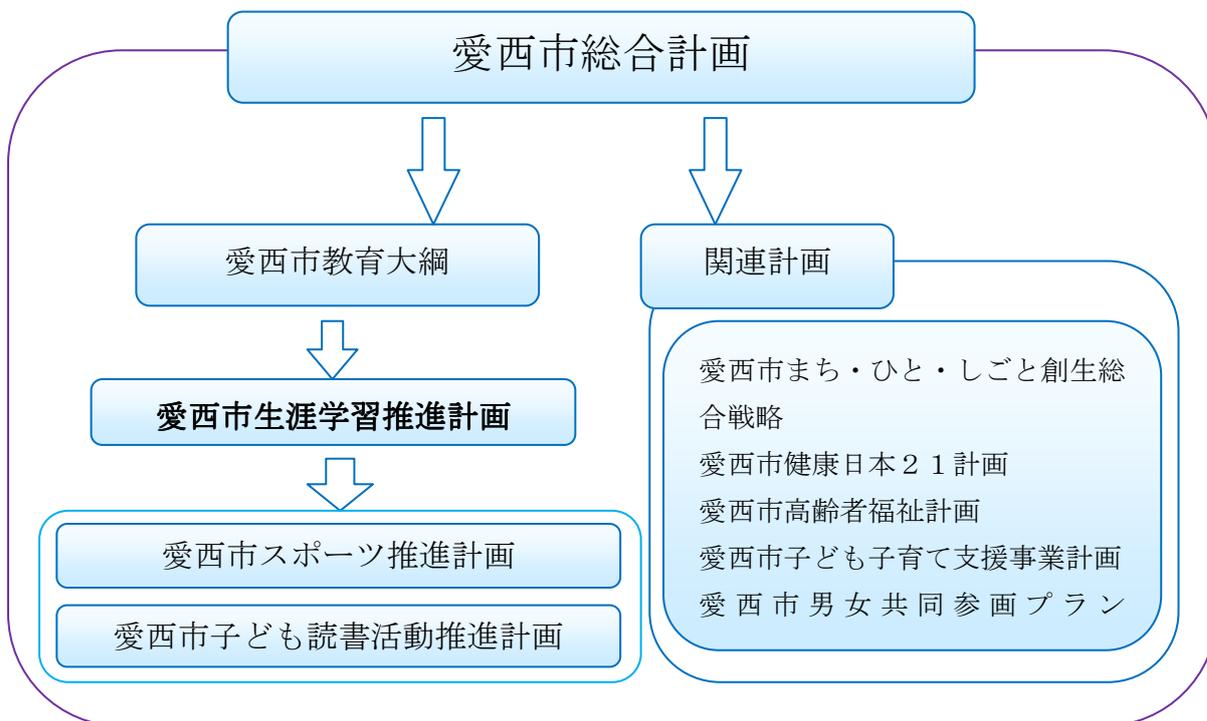
災害の多発によって避難所の増設や運営等を円滑に進めるために地域の絆・ネットワークの重要性が再認識されています。地域における人と人とのつながりが希薄化している現在、公民館などでの学びの機会や仲間作りを通して地域社会のつながりを強くしていく努力が必要です。

【その他】

環境問題・地産、地消を取り入れた食育・持続可能な社会づくり・性的少数者に関する問題・多文化共生など、年々変化する現代社会の抱える問題の学習機会が必要です。

2 計画の位置づけ

本計画は「愛西市総合計画」および「愛西市教育大綱」を上位計画とし、計画の策定にあたっては、上位計画・関連計画との整合性を図っています。



3 計画の目的

愛西市民一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通して意欲的に学べる環境をつくり、学習成果を生かした自発的な活動を支援し、地域の活性化や発展につなげることを目的としています。

4 計画の期間

2019年度（平成31年度）から2026年度までの8年間とします。

5 計画の基本理念

生きがいづくり・人づくり・まちづくり

第1次生涯学習推進計画の基本理念をそのまま引き継ぎます。

- ・いつでも、どこでも、誰もが、自発的な意思によって学習し、自己を高め、充実した人生を送ることができる
- ・個人の学習活動の充実だけでなく、一人ひとりが学習活動で生きがいを見つけたり、知識や技術を習得したりした成果を活用し、人と人とのつながりによってさらに発展させることができる
- ・一人ひとりが学習成果を社会へ還元することにより、地域力を高め、活気に満ちたまちづくりへつなげることができる

生涯学習とは・・・

生涯学習とは、私たち一人ひとりが、興味や生きがいを感じる学習の素材を自由な意思で選択し、学習形態にとらわれずに、人生（心）を豊かにするための学ぶ活動（学習活動）です。

健康のためのウォーキングや、自宅でインターネットを使って何かを調べるのも、生涯学習です。知りたい、学びたい、体を動かしたい、と思ったことを自分から進んで行うことはすべて生涯学習です。

6 計画の構成

基本目標 1 いつでも、誰でも、気軽に学ぶ ~子どもから大人まで~

人々の生活は多様化しています。そのため、個人的な趣味・関心等を満たすものだけでなく、自身の健康のためであったり、新しい情報技術や知識の習得であったり、休日の忙しい合間を縫って参加する親子での学習・ワークショップなど、新しい内容の生涯学習にも関心が寄せられています。

本計画は学習形態にとらわれることなく、市民の意見を聞き、様々な学びの機会を設けることで、より多くの市民が学習活動に参加できる可能性を広げていきます。

基本目標 2 学んだことを伝える、活かす

個人で学んだ技術や知識、学習活動は人と交流することで新たに発展していくことが考えられます。交流することで仲間ができ、成果を発表し合うことで個人で行ってきた活動に目標ができ、さらに技術の向上が図れます。そうした機会を提供することによって、様々な人や団体の中で新たな交流が生まれることを期待します。ほかに、文化芸術活動をしている団体の発表の場や活動の支援を行います。

また、学んだ技術や知識を活かし、指導する活動ができるよう、「愛西市生涯学習人材バンク」を利用して紹介していきます。

基本目標 3 地域と協働、絆づくり

学んだことを講座のほかに地域コミュニティや市民活動、ボランティア活動などにつなげます。関係各課と協力し、地域行事や環境活動、防犯活動などにも活かしていきます。また、地域の歴史や地域に根付いている文化活動を学ぶことによって、次世代へ文化をつなげます。このようなことをさらに愛西市全体へ広め、地域間の交流の輪を広げてまちづくりにつなげていきます。

第2章 基本目標 1

いつでも、誰でも、気軽に学ぶ ～子どもから大人まで～

(1) 学習の啓発・機会の提供

現状と課題

生涯学習を市民がどうとらえているかについては、市民アンケートでの調査で「生涯学習」という言葉を聞いたことがある人が73.4%、また、「生涯学習」という言葉は、どんなイメージかとの問いには、「子どもから高齢期まで生涯を通じて学ぶこと」が38.9%、「生活を楽しみ、心を豊かにする活動」が次いで35.1%となっています。

生涯学習課が現在行っている事業別の現状・課題は次のとおりです。

【講座・教室】

趣味を持ちたい、何かやりたいという方のために、学習の啓発・機会の提供として、公民館・文化会館・体育館などで次のように様々な講座・教室を開催しています。

●趣味・ものづくり講座●

物を作ることは人生を豊かにします。自分でオリジナルなものを生み出す喜びを感じていただけるよう、公民館・文化会館などでは毎年、様々な分野の手芸・工芸・絵画・園芸などの講座を行っています。

趣味・ものづくり講座は毎年の流行などを積極的にとらえて、市民ニーズに応えられるよう、新しい提案をしています。

●健康・リフレッシュ講座●

運動による快感、リフレッシュを体感していただくため、日常的に体を動かす講座を開催しています。



楽しいエアロビクス

●文化・教養講座●

人生をさらに充実させるため、趣味より一歩進んで、技術を身につけたり、何かのテーマで学習する講座です。音楽・楽器を習う、外国語を学ぶ、知識を得るなど、市民のニーズに応えながら新しい技術を身につけていただけるよう企画しています。



タブレット端末 PCに触れてみよう



オカリナ教室

●スポーツ教室●

市民にスポーツに親しんでもらうため、様々なスポーツの大会や教室などを行っています。



ニュースポーツ キンボール

【文化芸術事業】

文化芸術事業では、市の生涯学習施設を利用して、心の豊かさの糧となる文化・芸術を市民が触れる機会を提供しています。「文化祭」「音楽祭」「ジュニアコンサート」「観劇会」などを開催しています。

今後も市民が関心を持ち、様々な芸術に触れる機会を増やしていくことが課題です。

【図書館事業】

読書も生涯学習の一つです。市の図書館では、市民に関心を持ってもらおうと様々な行事を行ない、活字離れ・読書離れが進む子どもたちの感受性を養う子ども読書活動の充実にも努めています。

近年、特に中高生の活字離れが進んでいます。中高生がもっと本に関心を持ってもらえるよう、読書推進が課題です。また、図書館の利用も減少しています。図書館をもっと身近に利用していただくことが課題です。

【文化財事業】

愛西市の文化財について、市民によりよく知っていただくために、様々な講座や催し物を行っています。地域の文化財について知識を深め、継承していくことが大切ですが、近年、地域の間関係の希薄化により地域の伝統行事の継承などが困難になることも懸念されています。

【現代社会の抱える問題についての事業】

現代社会の抱える問題は、市民が共に考えるべき課題です。環境問題や人口問題、エネルギー問題、多文化共生などをテーマにした学習機会を提供し、持続可能な社会づくりを進める必要があります。

市民に問題意識を持ってもらうため、このような現代社会の抱える問題を取り上げ、講座・教室や講演会などを行っていくことが求められます。

アンケートによると、1年間に講座・教室に参加しなかった人の割合は76.1%と、参加の割合は低くなっています。参加しなかった理由では、「忙しくて時間がない」が37.5%、「きっかけがない」が31.2%となっており、「必要がない」7.5%、「そういうことは好きではない」6.9%など、参加したくないわけではなく、できないと思っている人の方が多いと思われます。このような人々に生涯学習について関心を持っていただくことが課題です。

また、アンケートの中の「市民の生涯学習をさらに盛んにしていくために、市が力を入れるべきこと」の64.4%が、「誰でも気軽に参加できるような講座、イベントを増やす」でした。今後は、誰でも気軽に参加できる工夫が必要であることがわかります。

今後の方向性

- 生涯学習とはどんなことか、市民の理解を深めていきます。
- 学ぶこと・考えること・体を動かすことの楽しさ、大切さを伝えていきます。
- 生涯学習施設で多彩な講座・教室・イベントを開催します。学ぶきっかけを増やすため、開催日時や応募方法・広報等に考慮していきます。講座に誰でも気軽に参加できるよう、開催方式を変えたり、託児を設けたりするなど様々な方法を試みて開催していきます。
- 文化芸術事業は、今後もさらに多分野の催し物の開催が求められます。公民館・文化会館のホールなどを利用して、市民にもっと多彩な文化芸術に触れる機会を作り、心の支えにつなげていきます。
- 活字離れを食い止めるため、「図書館まつり」等、図書館で機会あるごとに楽しい催し物を開催し、本のリサイクルや、ボランティアによる読み聞かせ等を実施し、読書活動に触れる機会を提供していきます。
- 文化財を深く学ぶことで文化財に対する理解を深め、文化財を守る意識を促し、未来へつなげていきます。
- 現代社会の問題の理解を深めるために、環境・人権・多文化・持続可能な社会の実現などをテーマに、他の課と協力し合いながら講座・教室・講演会を開催していきます。

(2) 様々な学習の場の提供

現状と課題

愛西市には様々な生涯学習施設があります。とりわけ、公民館・図書館など、社会教育法に規定される社会教育施設は、社会教育主事・学芸員・図書館司書などの専門職員を配置し、市民や社会のニーズのほか、行政の動向を的確に把握しながら、効果的なプログラムづくりや運営上の改善・工夫に努めています。また、学校や他の生涯学習関連施設とのネットワークづくりを進めたりするなど、中心的な役割を担っています。

【公民館】

市内の2カ所に公民館（佐織公民館・永和公民館）があります。公民館は貸館業務のほかに、教育施設であるため、前項に上げたような様々な生涯学習講座を開催しています。また、佐織公民館は500席収容のホールや会議室等を備えており、芸術文化活動振興にも利用できる施設です。



佐織公民館



佐織公民館・ホール

【文化会館】

文化会館は芸術文化振興のための施設です。音楽や演劇、ミュージカル、伝統芸能、美術など多岐にわたる分野の振興のため、600席収容のホールや会議室があり、コンサート・発表会・展示会等に利用できます。また、様々な生涯学習講座も開催しています。



文化会館



文化会館・ホール

【図書館】

市内3カ所に図書館（中央図書館・佐織図書館・立田図書館）があります。三館ともネットワークで結ばれています。貸出はもちろん調べ物のお手伝いや、工作教室、映画会、テーマによる本の展示、学習室サービスなど、子どものための企画も行なっています。



中央図書館



中央図書館・一日図書館員

【郷土資料室】

郷土の歴史を学ぶ施設として、佐屋郷土資料室・八開郷土資料室・佐織歴史民俗資料室があります。これらの施設は、市の伝統や文化財を継承していくため、とても大切な施設です。



佐屋郷土資料室（文化会館内）



佐織歴史民俗資料室（佐織公民館内）

【コミュニティセンター・集会所など】

地域の学習・生活の関連施設としての機能を持つ一方で、住民自治の場であり、教育と生活の接点であると言われています。市民にとって一番近く利用しやすい施設です。

【体育館】

市内3か所に体育館（親水公園総合体育館・佐織体育館・立田体育館）があります。アリーナのほかトレーニングルームや、会議室もあります。また、親水公園総合体育館には、あいさいスポーツクラブ・体育協会の事務室があります。



親水公園総合体育館



親水公園総合体育館
(トレーニングルーム)

【運動施設】

市内6か所に運動場（親水公園総合運動場・佐屋総合運動場・佐屋スポーツセンター・立田総合運動場・佐織総合運動場・八開運動場）があります。野球・ソフトボール・テニス・ゲートボールなど、用途に応じて利用されています。



親水公園総合運動場



立田総合運動場

【学校施設】

平成29年3月の社会教育法の改正により、地域学校協働活動が法律に位置づけられました。このことから学校施設を生涯学習施設と考え、地域とつながり、土曜日の学習・スポーツでの利用・伝統行事の継承・住民の学習の場などに活用する地域も多くなっています。

国・県は地域を支える指導者として、地域コーディネーターを養成し、地域と学校とが連携・協働できる仕組みづくりを促進しています。

日頃より地域の人々が学校施設を使用することで学校と地域のつながりが、より密になることを望んでいます。

アンケートによると、生涯学習を行いたい施設は「コミュニティセンター」が31.2%、次いで「文化会館」の19.6%、「公民館」の18.2%でした。コミュニティセンターが一番近くにある利用しやすい施設であることがわかります。

「施設が遠い」ことに不満を感じている人が40.9%という事もあり、今後、どうしていくかが課題です。

また、各施設とも、若年層の参加が少ない状況です。施設をどう知ってもらうかも課題です。

今後の方向性

- 公民館・文化会館・スポーツ施設などで、文化芸術活動・スポーツ活動に関連する団体サークル等を応援していきます。
- 公民館・文化会館・スポーツ施設の利用はもちろん、今後はコミュニティーセンターや地区の集会所なども生涯学習施設としてとらえ、講習会などに利用してもらい、催し物等の情報や様々な文化に関する情報を発信していく場所として活用できる方向に仕組みを整えていきます。また今後、地域と学校が連携して、学校施設を生涯学習の発展や活動の場に活用できるよう推進していきます。
- 生涯学習施設は、小さい頃から催し物や施設見学などで利用して、成人になってからも身近な施設として長く利用していただけるよう工夫していきます。
- 平成28年4月に障害者差別解消法が施行されたことにより、障害のある人への合理的配慮が求められています。各施設では、障害者への配慮やイベント等での手話通訳・要約筆記を行っています。今後主催者・参加者を問わず障害のある人への必要な手助けをするため、このような活動をより推進していきます。
- 民間のノウハウをうまく活用しながら、多様化する市民ニーズに応えていくことができる指定管理者制度も取り入れながら、よりよい施設管理に努めていきます。

(3) 情報提供の充実

現状と課題

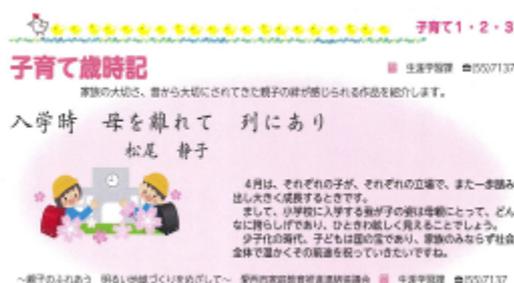
市では広報で催し物の案内や講座・教室の紹介を行っています。また、「生涯学習のご案内」を年2回発行し、公民館や文化会館など施設に設置し、講座・教室の紹介をしています。文化協会や体育協会はクラブの一覧を発行して会員を募集しています。またスポーツに関しては、総合型地域スポーツクラブ「あいさいスポーツクラブ」で会員を募集し、講座を紹介しています。

【広報あいさい】

広報あいさいでは「イベント・催し・講座」コーナーで生涯学習の記事を載せています。アンケートでは学習情報の入手方法として1番に利用されていました。また、「子育て1・2・3コーナー」では、絵本の紹介や、家庭教育推進連絡協議会委員による「子育て歳時記」を載せ、家庭教育の啓発をしています。



子どもの本棚



子育て歳時記

【生涯学習のご案内】

生涯学習課が年2回発行している冊子です。講座・教室の案内・イベント情報・生涯学習事業・スポーツ事業・図書館事業・文化財事業などを総合的に掲載して参加を呼び掛けています。庁舎・公民館・文化会館など各施設に設置しています。



生涯学習のご案内

【図書館の情報】

生涯学習の情報の他に、図書館は様々な情報発信を行ったり、資料の保存をしています。特に中央図書館では図書・新聞・雑誌はもちろん、インターネット閲覧コーナーも利用できます。また、図書館の検索システムは自宅でも利用できます。検索システムで利用できるものは、ホームページ・インターネットによる資料検索や予約システムなどです。必要に応じて利用者の学習や調査・研究に必要な資料を探す手伝いなども行っています。また、市外の美術館・博物館・科学館などの催し物のパンフレットなども見るできるようになっています。

図書館は情報を新しくし、確かな情報の提供ができるよう、常に資料を整備していく必要があります。

●図書館の資料・情報●

一般図書・児童図書（絵本・紙しばい含む）・外国語図書・郷土資料・行政資料・参考資料・視聴覚資料（CD・DVDなど）・逐次刊行物（雑誌・新聞）・パンフレットなどがあります。

また、インターネットによる情報提供も行なっています。

●資料の検索システム●

インターネットによる図書資料検索システムです。自宅のパソコンやスマートフォンの検索が可能です。愛知県図書館横断検索システムでは県内の図書館の資料も検索可能です。

アンケートによると、学習情報を得ているものとして「市の広報」が36.6%、「生涯学習のご案内」が22.9%と、多くなっていました。それ以外にも「家族や友人、知人からの情報」が33.6%と、高い値を示しており、地域のネットワークが充実している反面、生涯学習の情報に「やや不足している」と感じている人が37.2%であることから、情報発信力を向上させることが課題です。

今後の方向性

- 広報あいさいは認知度が高く閲覧者も多いため、今後も生涯学習のPRに活用していきます。
- 子育て中の方への情報サービス「子育てアプリ」を活用し、生涯学習の情報提供ができるよう図っていきます。
- 「生涯学習のご案内」は、形態・設置場所・配布方法等を検討するなどして、より市民のニーズに応えられるよう、利用に応じていきます。
- 図書館の情報は、求める資料を確実に見つけれられるよう、資料を整備します。また、パンフレットなども充実させ、情報を十分に提供していきます。
- 近年のスマートフォンの普及に対応した、ホームページやインターネット、SNSなどコミュニケーションツールを使った情報を提供します。スマートフォンで見やすい構成を心掛け、写真や動画を多用するなどして、ネット上でシェアしてもらえるよう、工夫していきます。SNSの拡散能力を利用し、そういった情報環境を利用して、市民へ生涯学習の活動を啓発していきます。
- 従来の、マスメディア（新聞・ラジオ・テレビなど）を活用した情報提供も、広く周知する有効な方法であるため、このような媒体も利用して生涯学習の情報提供に努めていきます。

(4) ライフステージに応じた学習の支援

現状と課題

市民の日常生活はライフステージによって変化します。それと共に求める生涯学習も変化します。

【高齢期】

現在、『人生100年』と言われるように、ライフサイクルが変化し、高齢期の学習活動は重要だと考えられます。自分の経験値の延長線上でじっくりと自分らしく学ぶ活動と社会参加を創りあげる段階をセカンドステージと捉え、新しい人生と考える人が多くなったためです。

市はこの世代を対象とした事業を展開し、これらの人々をつなぐ役割をしていかななくてはなりません。昨今、この世代が個人レベルでの活動では満足せず、社会参加活動に達成感を求める欲求が強くなったためです。「働く」「学ぶ」「遊ぶ」のすべての分野で意義を求め、セカンドステージに積極的な意義を見出していこうとする生き方が一層強まっています。

また、高齢者の終活等に関する知識を得ることや、日常的に脳や体を動かしたり、スポーツをしたりすることによって健康を維持したい方も増えています。このようなことを踏まえ、学びの場や活動内容の検討をしていく必要があります。一方で世代間交流がしたいという要望も増えており、このようなニーズにも答えられるような企画も考えていくことが必要です。

●積極的な意義を見出すための講座●



古文書講座

古文書の解読法を学び、
市内に伝わる古文書の解読に挑む

●健康に関する事業●



愛西さわやかウォーキング

【子育て世代】

子育て世代も変化しています。共働き家庭の増加で、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進、父親の積極的な育児参加、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みが必要です。生涯学習への参加も、親子で参加できる催し物への希望が多く、託児サービスを増やし、育児・料理・音楽・健康などがテーマの親子の企画を増やすなど、子育て世代が参加しやすい工夫をしていく必要があります。

また、中央図書館では、絵本の紹介・絵本や紙しばいの読み聞かせ・工作会など、子どもが楽しく本に触れる機会を設けています。男女共同参画週間には、参考となる図書コーナーを設けて、子育て世代を応援しています。

●子育て世代の参加できる事業●



親子観劇会



家庭教育講演会（託児）



図書館まつりでのおはなし会
（紙しばい）

親と子とのふれあいは、家庭教育にとって非常に大切です。こうした中、親子講座は大変人気があります。共働き世帯が増加している中、わずかな余暇の時間に子供と触れ合う機会を見つけるため、親子が参加しやすい講座の形態を整えることが必要です。

●幼児期家庭教育推進事業●

未来の日本を創る心豊かでたくましい子どもを育むため、親が子育ての悩みや、不安を払拭し、自信を持って子育てができるよう、家庭教育に関する学習機会の提供を推進しています。



体を使った親子のふれあい



ふれあい音楽会 楽器と触れる

●家庭教育事業●

家庭教育の果たす役割はとても重要です。家庭教育事業は、保護者が家庭教育について考える学習機会を提供しています。愛西市小中学校PTA連絡協議会と共同で開催しています。

【青少年】

青少年を取り巻く環境は、スマートフォンの普及などにより有害な情報が氾濫し、多様なものになっています。また、一部では、ニート、ひきこもりなどによる社会的自立の遅れなども見られ、深刻になりつつあります。

このような状況の中、青少年が心身ともに健康で、社会において自己実現が図れるよう、活動の場の提供を推進していく必要があります。

そこで市では、青少年問題協議会を立ち上げ、委員による啓発運動の実施や、有害図書の回収などを行っています。

また、図書館では学習の場の提供や青少年向け図書のコーナーなどを設けて青少年の育成を推進しています。

さらに社会の一員として地域の活動に参加できるよう、成人式の一部の運営依頼や、ジュニアコンサートの開催等、青少年が交流を図れる機会を設けています。

●成人式●

市成人式のアトラクションを新成人の実行委員会にお願いしています。新成人は出し物などを相談し合って内容を決め、会場は大いに盛り上がります。



成人式のアトラクション

新成人の実行委員会が
アトラクションを
企画して行います。

今後の方向性

- 日常生活の中で生じる課題解決に役立つ知識や経験を得られるよう、それぞれのライフステージに応じた講座等を行っていきます。
- 超高齢社会に対応し、高齢者に必要な知識を得る学習機会を設けます。また、高齢者がいつまでも元気に生きがいを持って暮らせるよう、健康づくり・社会参加活動などを応援していきます。
- 様々な親子で参加できる講座・催し物を開催していきます。
- 子どもと一緒に気軽に立ち寄り、参加者同士や地域の子育て支援者と交流しながら、一緒に子育てについて考える場を提供していきます。
- ファミリーサポートセンター、子育て支援サークル、読み聞かせボランティア、子育てネットワークなどの協力を得ながら家庭教育を推進していきます。
- 青少年の健全育成・子どもや青少年の文化活動・学習の機会や場を提供していきます。

数値目標 ●生涯学習関連事業の展示（生涯学習課・公民館・文化会館）
開催されている講座や教室等を紹介する展示を行う（年間）

現 状 0 回 → 目 標 1 回

●生涯学習体験講座
事前の申し込みがなくても気軽に参加できる講座・教室等の実施
(年間)

現 状 1 教室 → 目 標 3 教室

●若年層の学習機会の提供
10代・20代の若年層を対象とした講座、教室等の実施（年間）

現 状 2 教室 → 目 標 3 教室

第3章 基本目標 2

学んだことを伝える、活かす

(1) 学習成果発表の場の提供

現状と課題

生涯学習の発表の機会は、学習者にとって一つの目標でもあり、学習や活動に取り組んでいく上で意欲を高める重要な場です。また、学習者同士・活動サークル間の交流の場としても大変重要な機会です。こうした公民館・文化会館やコミュニティセンターなど地域に根ざした発表の場の充実を図ることで、市民や活動団体の学習成果を広く発表・公開し、地域全体の財産にしていくことが大切です。

また、個々の団体では発表の機会を設けるのが難しい団体もあります。そのような文化活動に対して、文化芸術活動を推進するため、グループ・活動団体を支援し、発表の場を設ける必要があります。

【学習成果発表の場】

●文化祭●

市民を対象に、文化会館・佐織公民館等を会場として、日頃の成果を発表する、1年に1回の催しです。文化協会を中心に、盛大に開催されます。市・市民・団体が協力し合う、市民協働の良い機会です。また、各団体は文化祭があることによって、目標ができ、文化芸術活動の活性化を図ることができます。



作品展



芸能発表

●ジュニアコンサート●

佐屋中学校オーケストラ部と、佐織中学校・佐織西中学校吹奏楽部による演奏会です。日頃の成果を市民へ披露する発表の場であり、3校の生徒の交流の場となっています。



ジュニアコンサート

●市民スポーツ大会●

各種スポーツの市民大会です。バレーボール・テニス・グラウンドゴルフ・弓道など、約20種目、体育協会の主催で行われています。市内の選手の交流の場ともなっています。



グラウンドゴルフ



ミックスダブルステニス

●その他の催し●

ピアノ・合唱・ダンス・絵画・華道など、個人のサークルや団体などの発表会・展示会が公民館・文化会館・体育館などを利用して開催されています。

今後の方向性

- 生涯学習に魅力を感じ、学習活動を始めるきっかけとすることができるよう、より多くの市民が発表者の学習の成果を見ることができる機会を提供していきます。
- 文化祭や市民スポーツ大会などを開催し、文化協会・体育協会や市民の学習発表や技術向上など、日頃の成果の発表の場を提供していきます。
- 学んでいる人や団体が、学習発表の場で交流することにより、知り合う機会を提供していきます。
- 生涯学習施設・体育施設などで、個人団体・サークル等の日頃の成果の発表の場を提供していきます。
- 文化芸術活動を推進するため、グループ・関係団体を支援していきます。

(2) 家庭で、職場で、活かす

現状と課題

アンケートの「生涯学習をどのように活かしていますか」という質問では、「自分の人生がより豊かになっている」が60%でした。

しかし、習ってきたことを家庭で活かしていることや、技能であれば習ってきたことを職場で活したりと、自分のためになっていると思っていたことが実は、他の人のためになっている場合もあります。

このような体験は外へ向かって生涯学習を活かす第一歩です。学んだことを活かした喜びを、さらに発展させていくための体験でもあると言えます。

【家庭で、職場で、活かす講座】



パン教室



飾り巻き寿司



大人の英会話



中国語講座

英語や中国語を学んで、旅行などに活かします



今から始めるタブレット講座

タブレットの使い方を学び、日常に、仕事に活かします。



新春お正月寄せ植え

お正月にふさわしい寄せ植えを学び、家庭に飾ります。

アンケートの「生涯学習を通じて身に付けたことをどのように活かしていますか」という質問では、「日常の生活や地域での活動に活かしている」が8.6%でした。日常の生活や地域での活動に役立っていると感じる人が少なく、今後はこの数値を向上していくことが課題です。

今後の方向性

- 家庭生活に活かすことができ、日常生活で役に立っていると感じられるような内容の講座を企画していきます。
- 家族に教えたり、伝えたりできるような、役に立っていると感じられる内容の講座を企画していきます。
- 市民自らの能力を高めたり、技能の向上ができるような講座の企画や情報提供をしていきます。

(3) 学びを共有する芽を育てる

現状と課題

学習者の、他の人と学びたい、もう少しレベルアップしたい、という市民の自主的・自発的な活動の促進を図るためには、文化芸術に親しむ文化団体・スポーツに親しむスポーツ団体が不可欠です。愛西市では文化協会・体育協会・総合型地域スポーツクラブの活動を支援しています。

団体は毎年、「文化協会加盟団体一覧」「体育協会加盟団体一覧」「あいさいスポーツクラブ会員募集」を発行して、一般市民の参加を呼び掛けています。また、婦人会は「婦人あいさい」を発行し、婦人会活動を紹介し、参加を呼び掛けています。

さらに、文化祭では文化協会のほかに一般の方々からも作品・出演を募集し、新しい発表の場・交流の場を設けています。

●文化協会●

文化協会は、愛西市の各種事業に協力し、文化芸術活動の向上、地域文化の発展に寄与すること、団体間の相互の親睦を図ることを目的とした組織です。常時会員を募集しています。

●体育協会●

体育協会は、愛西市のアマチュアスポーツの普及とスポーツへの関心を高めるのに必要な事業を行うことを目的とした組織です。常時会員を募集しています。



あいさいスポーツクラブ

●総合型地域スポーツクラブ「あいさいスポーツクラブ」●

あいさいスポーツクラブは、スポーツを通じて仲間とふれあうことを目標とした地域住民が主体となって自ら運営・管理することを基本に設立されました。クラブの趣旨に賛同すれば、子どもから大人までどなたでも会員になれるクラブです。

平成25年度の内閣府の高齢者の地域社会への参加に関する調査では、グループ活動へ参加したい高齢者は59.8%であり、団体への参加意欲が高くなっています。高齢者が新たな生きがいを求めて活動を行いたいというニーズに応えることができるような機会を提供することが期待されています。

文化協会・体育協会とも、会員は減少傾向にあります。また、会員の高齢化も進んでいます。会が存続するには後継者となる会員が必要です。新しい会員を増やすことが課題となっています。

今後の方向性

- 興味ある趣味のサークルなどを紹介していきます。
- 自らの学習を外に向けた自発的な活動につなげる仕組みを作っていきます。
- 受講者同士の学び合いや学習のネットワークづくりを推進していきます。
- 新しいサークルづくりを応援していきます。
- 文化協会・体育協会・あいさいスポーツクラブ・婦人会を支援し、PRに努め参加を呼び掛けていきます。

(4) 指導者として活かす

現状と課題

生涯学習活動の成熟化とともに、学習者の中には、さらなるレベルアップとして、社会に還元したいと考える人がいます。市民同士が学習成果や取得した資格を活かし、学び合える場の提供が求められています。

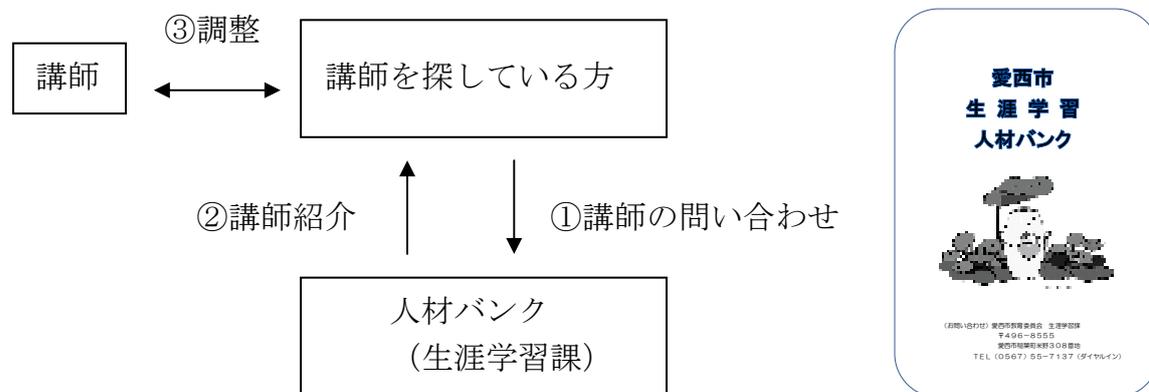
生涯学習課では、平成29年度より、生涯学習に関する知識、経験、技能等を有している人材を発掘し、その情報を提供する「愛西市生涯学習人材バンク」の冊子を設置し、市民の学習を支援しています。

「生涯学習人材バンク」は、何か新しいことを学びたい人と、自分が学んだことを伝えたい人を結ぶ場です。

「生涯学習人材バンク」を紹介した冊子は現在、愛西市役所生涯学習課・佐織公民館・永和地区公民館・文化会館・中央図書館・親水公園総合体育館に設置されています。

人材バンクの分野は多岐にわたり、登録者は該当する分野を選びます。

生涯学習人材バンク イメージ図



(生涯学習人材バンクの登録者) 「こんなことなら教えられるよ」「今度は誰かに教えたいな」「初心者向けならやってみたい」と思われる方

(生涯学習人材バンクを利用できる方) 市内で活動している団体(原則5名以上)
※ 宗教団体・政治団体・営利目的の方は利用できません。

[愛西市人材バンク登録分野一覧表]

区分	A	B	C	D	E	F	G	H	I
	人文社会	自然科学	産業技術	教育学習	芸術文化	スポーツ	家庭生活	言語	その他
1	歴史	化学	情報通信	幼児教育	書道	陸上	出産育児	日本語	環境
2	地理	天文	商工	家庭教育	絵画	体操	介護	英語	福祉
3	政治	数学	農林水産	青少年教育	版画	球技	礼儀作法	ドイツ語	まちづくり
4	経済	物理	園芸	成人教育	写真	水上	衣服裁縫	フランス語	国際事情
5	法律	地学 気象	造園	高齢者教育	演劇	雪上 氷上	料理栄養	スペイン語	イベント
6	哲学 思想	医学	畜産	生涯学習	舞踏パ レエ	武術格 闘技	手芸	イタリア語	余暇活動
7	宗教	薬学	運輸 交通	人権教育	彫刻工 芸	野外活 動	理容美 容	フィンラ ンド語	時事
8	心理学	生物学	観光	平和教育	音楽	その他	消費生活	ロシア語	その他
9	民俗 郷土	動植物	機械・ 電子	女性問題	茶道・ 華道		住居家具	中国語	
10	考古	その他	土木・ 建築	一般教育	文学		防災	その他	
11	その他		その他	その他	大衆演 芸		保健衛 生		
12					その他		その他		

今回のアンケートで「生涯学習人材バンク」について「知っている」と答えた方が6.6%でした。まだ認知度が低く、利用されていないことから、今後さらに周知していく必要があります。

今後の方向性

- 市民自らの学習成果や資格を活かし、市民同士が学び合えるよう努めていきます。
- 「生涯学習人材バンク」をもっと市民に認知されるよう積極的に啓発し、更なる充実を図っていきます。
- 「生涯学習人材バンク」冊子の設置場所を増やすよう努めていきます。
- 「生涯学習人材バンク」を活用し、必要な人につなげるよう努めていきます。

数値目標

●生涯学習人材バンク登録数

現 状 19人 → 目 標 30人

●生涯学習人材バンク冊子設置場所数

現 状 6箇所 → 目 標 16箇所

第4章 基本目標 3

地域と協働、絆づくり

(1) 市民活動へ、つなげる支援

現状と課題

市民が自発的・主体的に活動することは生涯学習推進の上で、重要なことです。生涯学習を市民活動につなげていくためには、行政と住民の橋渡しをする社会教育委員の意見を参考にしたり、活動する人と受け入れる側をつなぐコーディネーターを置いたりすることによって、より効果的な支援を行うことができます。今後こうした人材の養成も重要になってきます。

【あいさつ運動】

愛西市婦人会・PTAなど地域ぐるみであいさつ運動を行い、あいさつの大切さを教えます。



あいさつ運動

【おはなし会】

月1回～2回、中央・佐織図書館でおはなし会が行われます。地域のボランティア団体による絵本や紙しばいの読み聞かせ、人形劇・工作会などで、子どもに絵本等の楽しさを教えています。



中央図書館 図書館まつり

「生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を、自分以外のために活かすにはどのようなことが必要だと思いますか」との問いに、33.3%が「地域活動・ボランティア情報の充実」が回答されていました。また、「ボランティアに参加したい」人の割合も49.6%となっており、関心の高さがうかがえます。このような市民の意思を受け止め、自主的な活動を活発に行うことができるよう、促していくことが必要です。

今後の方向性

- 市民自らの経験や学習成果を、市民活動やボランティア活動に活かしていきます。
- 市民活動やボランティア活動についての情報を収集し、周知できるよう努めていきます。
- 地域の住民と協力し、身近な施設等を利用した生涯学習活動を推進していきます。

(2) 地域づくりへ、つなげる支援

現状と課題

価値観が多様化したことにより、地域のつながりの希薄化が指摘されています。東日本大震災の折、日頃から人と人とのつながりを大切にしている地域は、そうでない地域に比べて避難所の設置や運営が円滑に行われたということから、地域におけるネットワークがいかに重要であるかが再認識されました。

さまざまな災害に備えるため、地域住民の互助、ボランティア団体との連携・協働が速やかに行われるよう、自主防災組織の活性化や仲間作りを通して地域力を高めていく努力が強く求められています。

伝統文化の継承・後継者問題もまた、喫緊の課題です。このような問題や、さまざまな課題を解決していくため、市・学校・地域が連携・協働して取り組むことが不可欠です。

【納涼まつり】

地域の納涼まつりには文化協会や地域の団体が協力しています。



(佐織地区納涼まつり)

佐織中学校吹奏楽部がまつりを盛り上げています



(日置町納涼まつり)

婦人会が協力しています

【地区での文化祭】

地区での文化祭は、地区公民館やコミュニティセンターなどで行われています。地区公民館や地区のコミュニティセンターで練習してきた成果の発表の場であり、作品などの展示や催し物を楽しむだけでなく、人と人とのつながりによって、生きがいを感じる地域交流の場となっています。

【地域の伝統行事】

地域住民が大切に守っている行事です。地域住民が協力し合って準備をしたり行事を行うため、世代間交流も盛んに行われます。



(定納元服・オビシヤ)
二子町 白山社



(管粥)
日置町 日置八幡宮



(勝幡オコワ祭)
勝幡町 勝幡神社

このような伝統行事などの活動は、人間形成の基礎を培い、社会と積極的にかかわる人間として成長していく力を身に付けさせていく機能を果たしてきました。しかし、地域社会のつながりや支え合いの希薄化により、子どもたちを支えてきた地域社会の教育力の低下が指摘されています。

【高校連携講座】

佐屋高校と生涯学習課の連携講座では、園芸教室やウィンナーづくり、パソコン教室などが行われます。生徒が講師となり講座を進行したり、講座運営を補助したりして参加者と交流を深めます。

佐織工業高校との連携では、木工教室や、電子工作教室が行われています。



(佐屋高校) 夏野菜の基礎知識



(佐屋高校) ウィンナーづくり



(佐織工業高校) 電気工作教室

今回のアンケートで、学校と地域の望ましい関係について、「スポーツや文化活動ができる学校」の割合が29.1%で、1位でした。

地域がそれぞれの特性や文化を活かして地域の指導者によってイベントを企画し、開催することで市民の中に顔見知りを増やし、それによりコミュニティがさらに強固になり、何かが起こった時に協力し合える体制が生まれるとよいと思われます。地域力の向上・充実は、地域課題解決に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源になります。生涯学習を活用することによって、従来の地域の団体だけでない、新しいつながりが生まれるようになるとよいと思われます。

今後の方向性

- 学習活動を通して、地域に様々なコミュニティや仲間が増えるような活動を支援していきます。
- 地域の子どもや高齢者の自発的な学習を支援していきます。
- 地域の課題を市民の経験や学習成果を活用して解決に向けて取り組み、持続可能な社会を目指す活動を推進していきます。
- 関係団体、機関と連携し、地域の特色のある活動を次世代へ継承できるような地域コミュニティ活動の活性化を支援していきます。
- 地域の歴史や地域に根付いた伝統的な文化活動を学びあうことによって次世代へつなげる活動を支援していきます。
- 地域の高校生と交流しながら専門的な知識を得る学習活動を推進していきます。

(3) まちづくりに、つなげる支援

現状と課題

生涯学習を活かす場所は地域にとどまらず、まちづくりにも活かすことができます。愛西市全域で行われている「土曜日の教育活動・あいさい土曜キラリ☆学習」や、スポーツ事業の「スポーツ少年団活動」は、各地域の学校・家庭・地域が連携し、子どもたちが将来、社会を生き抜いていく力を培うために市全体で行われています。絵画・書道・音楽・各種スポーツなどの教室が、市内の学校施設や文化会館・公民館・体育館などで行われています。

また、「あいさい土曜キラリ☆学習 チャレンジ学習」では学習支援を行っています。小学生が日頃の学習でのつまずきや疑問を解決する場として利用するもので、地域の教員OBや大学生ボランティアなどが講師となっています。

また、市全体で取り組むことのできる学習活動を提案して、活動団体間の交流を深めたり、愛西市内の各種スポーツ選手の交流を深めるために市民大会を開催しています。

さらに愛西市として特徴のあるものをまちづくりへ活かしていくこともできます。特産品のレンコン・イチゴ・トマトなどや、木曾川を始めとする川・治水について、市の花ハスについて、市民が学び、市内外に広めていくことも大切です。市の価値ある文化財を守り、「尾張津島天王祭の車楽舟行事」の市江車を次世代に継承し、市内外にその魅力を広めていくことが重要です。このように、生涯学習をまちづくりや観光に活かしていけるよう努力することが必要です。

【教育活動推進事業】

《土曜日の教育活動》

① あいさい土曜キラリ☆学習

～子どもたちが多様な学習や体験学習を学ぶ～



習字



茶道

② あいさい土曜キラリ☆学習 チャレンジ学習
～日頃の学習でのつまずきや疑問を解決する～

土曜日の教育活動の学習支援の部です。教員のOBや大学生ボランティアが活躍しています。



あいさい土曜キラリ☆学習 (チャレンジ学習)

今回のアンケートで「愛西市が活性化するために望む取り組み」として「子どもを中心にした地域づくり」と答えた方が28.0%でした。地域の方々と協力して行っている「あいさい土曜キラリ☆学習、チャレンジ☆学習」をもっと市民に認知されるよう、積極的に啓発し、学校・家庭・地域が連携して事業を行っている事を周知していく必要があります。また、地域と協力し、今後も継続して開催していけるようにすることが課題となります。

【スポーツ少年団活動】

各地域の大人が子どもたちを指導します。年代を超えて地域住民がつながることが出来ます。



少年野球

【文化芸術推進活動】

●あいさい音楽祭●

平成30年度より開催の市民による音楽祭です。審査員も市民、ステージマネジメントも市民が手掛ける手づくり音楽祭です。



市内の音楽団体も協力し、1つの音楽を市民でつくり上げます。継続して毎年開催することを目標としています。

このような文化芸術を通して市民が1つになるような催しを企画することも大切です。

【愛西市の特徴あるものについて学ぶ講座】

●レンコン・ハス●

肥沃な土壌に恵まれた愛西市の特産品、レンコンに関する講座（レンコン掘り体験・レンコン料理教室など）を開催し、市民自体がレンコンについて学び、市内外へ広めています。



みんなでレンコン掘り体験

花の見ごろ、毎年7月第2土・日曜日に蓮見の会が開催されます。朝早くからたくさんの方が美しい花を観賞・撮影に訪れます。当日は文化協会による野点が行われ、ハスの美しさで愛西市の魅力を市内外に広めています。



蓮見の会



●川に関する催し●

愛西市は市の西側を木曾三川（木曾川・長良川・揖斐川）が流れている自然豊かなまちです。

平成30年3月、国土交通省の木曾三川下流部におけるまちづくりに、「愛西市かわまちづくり計画」が登録されました。この計画は、地域の人々の暮らしに密接にかかわってきた土木遺産や、治水の歴史を学べる施設、道の駅などの観光拠点、多様な自然環境などを活かしたまちと水辺が融合した空間形成を目指しています。

私たちは、愛西市の治水の歴史や環境について学びあい、まちづくりにつなげていくことも大切です。



木曾長良背割堤



木曾川ワンド（湾処）

※河川敷にできる入り江



木曾三川交流レガッタ

川を利用したスポーツのボート競技は、地域の活性化とまちおこしに寄与しています。広く木曾三川流域（愛知県、岐阜県、三重県）の方が参加できる大会です。

●愛西市の郷土に関する講座●

「講座・あいさい物語」は、市の歴史・民俗・文化・自然・特産物等を学びます。「愛西ガイドブック あいさい物語」をテキストに、毎回さまざまなテーマで行われます。

愛西市内を散策し、解説を聞くことで市の歴史文化に興味を持っていただき、参加者の郷土愛を育みます。また、参加者の中からボランティアガイドが育つことが期待されるため、毎年講座を開催しています。



講座・あいさい物語

●尾張津島天王祭の車楽舟行事●

東保町の住民が中心となって奉仕する市江車は、市が誇るユネスコの無形文化遺産です。尾張津島天王祭の朝祭に登場する市江車を保護・継承し、今後もさらに愛西市全体で普及活動を行っていく必要があります。



児行列



市江車

これら、愛西市の特徴についての周知はまだまだ不足しています。市の特産物や特徴・文化財などをもっと周知し、市の発展につなげるため、生涯学習を通じて様々な学習の機会を設けることが必要です。

今後の方向性

- 学習活動によって、まちづくり活動に関心を持つ市民が増えるよう努めていきます。
- 関係団体、機関と連携し、多くの市民がまちづくり活動へ参加し活躍できるよう支援していきます。
- 市全体で取り組める学習活動や文化芸術活動を推進していきます。
- 愛西市の特性を学ぶ機会を提供し、市の発展につながるよう努めていきます。
- 国の重要無形民俗文化財「尾張津島天王祭の車楽舟行事」の市江車行事など、郷土の歴史を理解し、地域の人々と共に市内外へその魅力を伝えていきます。
- 生涯学習活動団体が交流し市民の絆が深めることで、まちづくりへつなげていきます。

数値目標

- あいさい土曜キラリ☆学習、チャレンジ学習教室数（年間）

現 状 19教室 → 目 標 22教室

- 愛西市の特色を学ぶ講座数（年間）

現 状 3教室 → 目 標 5教室

参考資料

1. 愛西市生涯学習基本構想策定委員会設置要綱

平成17年4月1日

告示第28号

改正 平成25年2月15日告示第5号

平成28年3月31日告示第87号

(目的)

第1条 この告示は、愛西市生涯学習基本構想（以下「基本構想」という。）の策定に関し、生涯学習施策における基本的な構念及び方策について検討することを目的とする。

(設置)

第2条 基本構想を策定するに当たり、愛西市生涯学習基本構想策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(検討事項)

第3条 委員会は、次の事項を検討する。

(1) 基本構想策定に関する事項

(2) 前号に掲げるもののほか、生涯学習推進に関する必要な事項

(組織)

第4条 委員会の委員は、生涯学習に関し学識経験を有する者の中から、市長が依頼する。

(任期)

第5条 委員の任期は、基本構想の策定をもって終了する。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会には、委員長及び副委員長を置くものとし、委員長は委員の互選とし、副委員長は委員長の指名とする。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、必要に応じその職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会は、必要に応じ委員長が招集する。

2 委員会の議長は、委員長がこれに当たる。

3 委員会は、必要に応じ関係者から意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、教育委員会生涯学習課において処理する。

(その他)

第9条 この告示に定めるもののほか、委員会の議事及び運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この告示は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成25年2月15日告示第5号）

この告示は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月31日告示第87号）

この告示は、平成28年4月1日から施行する。

2. 生涯学習基本構想策定委員会委員名簿

	役職名	氏名	備考
委員長	社会教育審議会副会長	堀田喜一郎	
副委員長	保育園代表	鈴木智佳子	佐屋中央保育園
委員	教育長	平尾 理	
委員	教育委員	水谷 朋和	
委員	社会教育審議会会長	水谷 瀧男	
委員	家庭教育推進連絡協議会長	中野 良一郎	
委員	文化協会会長	田中 敏光	
委員	スポーツ推進委員代表	飯田 真由美	H30～
委員	婦人会長	中村 文子	H30～
委員	子ども会連絡協議会長	名倉 亨	
委員	小学校長代表	宅見 直巳	八輪小学校 H30～
委員	中学校長代表	湯澤 裕幸	佐屋中学校 H30～
委員	公募委員	志知 剛三	
委員	公募委員	伊藤 千里	

3. 計画の策定経過

年	月日	内容
平成 29 年	7 月 28 日	第 1 回第 2 次愛西市生涯学習推進計画調整会議 ・調査票（アンケート）案作成について
平成 29 年	8 月 29 日	第 1 回第 2 次愛西市生涯学習推進計画策定委員会 ・調査票（アンケート）案作成について
平成 29 年	10 月 10 日～ 10 月 23 日	生涯学習に関するアンケート調査 実施 調査対象：愛西市内在住で 16 歳以上の市民 2,000 名の無作為抽出（郵送） 回収数 683（34.1%）
平成 29 年	11 月 30 日	第 2 回第 2 次愛西市生涯学習推進計画調整会議 ・アンケート調査結果の活用について
平成 29 年	12 月 20 日	第 2 回第 2 次愛西市生涯学習推進計画策定委員会 ・アンケート調査結果の活用について
平成 30 年	3 月 7 日	第 3 回第 2 次愛西市生涯学習推進計画策定委員会 ・第 2 次愛西市生涯学習推進計画策定に向けて
平成 30 年	7 月 11 日	第 3 回第 2 次愛西市生涯学習推進計画調整会議 ・第 2 次愛西市生涯学習推進計画（案）について
平成 30 年	8 月 2 日	第 4 回第 2 次愛西市生涯学習推進計画策定委員会 ・第 2 次愛西市生涯学習推進計画（案）について
平成 30 年	10 月 25 日	第 4 回第 2 次愛西市生涯学習推進計画調整会議 ・第 2 次愛西市生涯学習推進計画（案）について
平成 30 年	11 月 22 日	第 5 回第 2 次愛西市生涯学習推進計画策定委員会 ・第 2 次愛西市生涯学習推進計画（案）について
平成 30 年	12 月 4 日～ 12 月 27 日	パブリックコメント（意見募集）の実施
平成 31 年	1 月 24 日	第 5 回第 2 次愛西市生涯学習推進計画調整会議 ・第 2 次愛西市生涯学習推進計画（最終案）
平成 31 年	2 月 19 日	第 6 回第 2 次愛西市生涯学習推進計画策定会議 ・第 2 次愛西市生涯学習推進計画（最終案）